

特集

8.17 災害から 35 年、 9.28 災害から 20 年

あの日のことを忘れない

「天災は、忘れたころにやってくる」昔からよく聞くこの言葉。今年、三和町を中心とした大水害の「8.17災害」(昭和43年)から35年目、また、記憶に新しい太田地区のほぼ全域を水が襲った「9.28災害」(昭和58年)から20年目という節目の年となります。

今、当時の被災地を歩くと、あの災害の面影はほとんどありません。また、木曾川護岸堤防の築堤など、当時と比べると、防災体制の整備は格段に進みました。

しかし、宅地開発など自然の保水能力の低下や局地的な豪雨化などにより、近年の各地の水害は、想定した防災体制をしのぐ規模になっています。

そこで、今回は、冒頭に述べたように記憶の彼方に消えかけようとしているあの災害の被災状況を検証するとともに、降雨災害についてあらためて考えていただきたいと思います。

市制施行（昭和29年）以降の主な災害

昭和29年7月30日	下米田中心に豪雨、農作物などに被害大
34年8月25日	第7号台風が来襲、三和・伊深を中心に被害大
9月26日	伊勢湾台風が来襲、市内でも6人死亡
36年6月27日	集中豪雨のため木曾川大洪水
9月16日	第2室戸台風来襲、被害大
38年6月22日	長雨のため被害大、特に麦の収穫皆無
39年9月24日	台風20号来襲、特に太田地区被害大
42年7月10日	豪雨のため太田地区床上浸水81戸
43年8月17日	集中豪雨、三和・伊深を襲い土地、家屋などに被害大、死者7人
45年6月15日	集中豪雨のため木曾川増水、床上浸水21戸、重傷者1人
49年7月5日	集中豪雨のため蜂屋・山之上で道路・河川決壊
58年9月28日	木曾川増水、床上浸水1565戸、死者1人
平成4年8月11日	集中豪雨のため道路・河川決壊 農地などに被害大
12年9月11日	集中豪雨のため加茂川増水、床上浸水1戸、床下浸水2戸

8.17災害で被害を受けて、流された大三和橋付近
左の写真は現在の大三和橋付近

